
特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所 ニュースレター

Institute for Global and Cosmic Peace IGCP Newsletter

第6号

2004年10月25日

もくじ

巻頭言

- ・ 中華人民共和国訪問の成果のうえに立って研究所としての本格的な発展へ！
中西 治 2

訪中特集

- ・ 中国旅行の印象 木村英亮 3
- ・ 痛哭の旅 川嶋英夫 4
- ・ パレスチナ問題（その5） 中国とパレスチナ 小林宏紀 6
- ・ 地球宇宙平和研究所訪中団学術交流会における論議から 渡辺直毅 7
- ・ 中国を訪ねて 近藤嘉人 9

論考

- ・ 韓国を6日間旅して 佐藤智子 10
- ・ タイの平和署名運動：第二次大戦、朝鮮戦争とイラク侵略戦争の今日 高橋勝幸 11

- ・ 会員紹介 野津志乃 14
- ・ 訪中報告 15
- ・ 理事会報告 18
- ・ 事務局からのお知らせ 19

巻頭言

中華人民共和国訪問の成果のうえに立って研究所としての本格的な発展へ！ 中西 治（なかにし おさむ）

2004年8月31日から9月8日までの中華人民共和国への私たちの研究所の代表団の訪問は大きな成果をあげ、私たちの研究所の歴史において画期的な出来事となりました。

木村英亮さんは「9日間の旅を終えると一つの学校を卒業したほどの充実感があった」と書かれていますが、私にとっても今回の旅行は大変実り多いものでした。

私が初めて中国を訪れたのは文化大革命末期の1975年4月8日から22日までの15日間でした。それから29年余、今回の7回目の中国訪問は中国の友人たちと私との個人的な付き合いの総まとめであり、私たちの研究所と中国の学術研究機関との学術文化交流の始まりでした。

私たちの研究所は2004年10月11日の第2期理事会第5回会議で新しい研究体制を確立しました。新たに学術研究委員会を組織し、そのもとに研究部、出版部、交流部を設置し、研究部のなかに研究員と客員研究員の制度を設け、学術研究委員会がそれぞれの研究員を委嘱するようになりました。研究員と客員研究員はいずれも無報酬です。

今回の理事会で学術研究委員会の委員長に中西治、研究部長に木村英亮さん、出版部長に王元さん、交流部長に汪鴻祥さんが就任し、それに新たに事務局長になった岩木秀樹さんを加えて5人で委員会を組織することになりました。

委員会はすでにできている「地球社会論」研究部会、「平和の歴史・思想・現在」研究部会、「日本社会」研究部会、「東アジア安全保障」研究部会、「現代中国」研究部会と密接に協力し、それぞれの研究部会の責任者はオブザーバーとして委員会に参加します。委員会は研究所全体の研究の拡大と発展、質の向上に努めるとともに、学術文化交流を積極的に推進します。

研究員は研究所正会員のうち希望する方に委嘱します。希望者は遠慮なく研究部長の木村さんか事務局長の岩木さんに申し出て下さい。私も研究員になることを希望しています。

客員研究員は研究所正会員以外の方（研究所賛助会員の方を含みます）に委嘱します。

今回の理事会で顧問の制度を設け、研究所の学術文化交流の発展に著しく貢献した方や研究所に多額の寄付をされた方に顧問の称号を贈ることを決めました。顧問は研究所の活動について助言することができます。研究所は篤志家を求めています。

2005年8月に朝鮮民主主義人民共和国を訪問することも決まりました。日本からウラジオヴォストークに飛行機で行き、同地の空港でビザを取得し、同日中に平壤に着きます。同国の名所、旧跡や板門店などを参観するとともに多くの人々とお会いし、この地域の平和

を確保するために意見を交換します。帰りは平壤から汽車で北京に向かい、北京からすぐに日本に帰国する案や北京で1-2泊して、北京大学日本研究センターと交流するという案などが出ています。いずれ計画が固まった段階でお知らせします。

私たちの研究所は基本的な活動体制を確立し、本格的に発展し始めました。この時期に大変残念ですが、研究所の設立準備期からお世話いただいた佐藤智子さんが事務局長を辞任され、後任に岩木秀樹さんが決まりました。佐藤さん、本当にありがとうございました。ますますの活躍を祈っています。

皆さん、新しい出発です。どうか知恵と力を研究所にお与え下さい。

(2004年10月11日)

訪中特集

中国旅行の印象

木村英亮(きむら ひですけ)

中国の人口は13億人、しかも今回訪問した漢族居住地域の北京、武漢、上海をとってもそれぞれ特徴をもっている。明の13陵の万曆帝(14代)の帝陵を見学したが、この皇帝は、10歳で即位し、26歳で地下27mの1195㎡の墓室をもつ自分の墳墓を完成した。何もしなかったのに、墓碑につける文字に困り頭を選んだが、それは目立ちたがりという意味もふくんでいるというガイドの説明にも驚いた。日本では天皇の墓にこのような説明はしないであろう。上海では高層ビルの多さと、その多彩なデザインにも度肝を抜かれた。パリやモスクワなどの古典的スタイルとは大違いで、日本やニューヨークに似てはいるが、はるかに自由奔放である。北京の故宮博物院、頤和園、天壇公園、万里の長城、武漢の黄鶴楼、上海の浦東開発地区、蘇州の拙政園、虎丘斜塔、寒山寺などでも同じような印象を受けた。このような民族の住む広大な地域を統一した政治について、まず感嘆した。

それぞれの都市で見学した博物館の展示、建物・設備も予期していたよりはるかに立派であった。盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館は、展示が研究者の目で冷静に行われていることに感動した。日本人の見学者も多く見かけたが、このような展示であれば、無理なく理解できる。しかし、このような博物館は、日本にこそ開くべきであろう。武漢の湖北省博物館の青銅器の独創的デザイン、さくらや歓喜の歌などの古代の鐘による演奏も堪能できた。ガイドの真摯で丁寧な解説もよかった。上海博物館は、最新の建物・設備をもち、レーザーによる日本語の説明もあった。

北京大学、武漢大学、上海社会科学堂で、私どもの意見を聞いてくださった研究者の皆様にも厚く感謝したい。ただし、短い滞在で、十分な討論ができなかったのは残念である。高度経済成長のなかで、

貧富の差が拡大しており、まだまだ困難な時期が続くであろうが、ソ連の轍をふまないで、新しい社会の展望を開くよう期待したい。

「かわいい子には旅をさせよ」といわれるが、大人でも旅行は勉強になる。3、4人の旅行はしばしばするが、老若男女24人というグループでの旅は初めてであった。見学やシンポジウムからばかりでなく、中西団長をはじめひとりひとりの方からも多くを学んだので、9日間の旅行を終えると一つの学校を卒業したほどの充実感があった。飛行機・バス・ホテルの「同窓」生として、今後もよろしくお付き合いください。

写真

学術交流会 上海社会科学堂

訪中特集

痛哭の旅

川嶋英夫（かわしま ひでお）

私は18歳の春、陸軍飛行特別幹部候補生に血書志願し、黒竜江省西部の飛行隊で細菌兵器の投下を含む地獄の訓練を受けた。教官は731部隊関係者だったと思われる。

今回の訪中団に家族6人で参加させていただき、盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館を訪れ、1000万人とも2000万人とも言われる中国の戦争犠牲者に対し、訪中団を代表して謝罪と慰霊の献花役をさせていただいた。

日中戦争で日本軍は「奪い尽くす、焼き尽くす、殺し尽くす」という悪逆非道極まりない「三光作戦」を実行した。略奪、放火、強姦、虐殺の限りを尽くす日本軍を中国の人達は「日本鬼子」(リーベンクイツ)と言って恐れた。この記念館には立体映像を含む多数の資料や記録写真が展示され、日本語の解説文も付けられていた。右手に軍刀を持ち、左手に中国人の首をぶら下げて笑っている将校の写真や、切り落とした首を数珠繋ぎにした写真もあった。

写真

北京 中国人民抗日戦争記念館

同行させていただいた孫は、大学2年(男)中学2年(女)小学校6年(男)の3人である。思春期を迎えた中2の孫が特に強烈なショックを受けたのは「中国人の娘を強姦して殺し、大腿部の肉を切り取ってギョウザを作って食べた」という記述だった。

731部隊に関する展示も多く、60年前に受けた地獄の訓練を、まざまざと思い起こされるものばかりでキリキリと胸が痛くなった。

湖北省博物館では中国文化の偉大さに圧倒させられた。1978年に発掘された曹侯乙墓から出土した青銅器、兵器、楽器、漆器、金玉器、竹簡等の数は15000点余りで、その総重量は2300キロである。私はコバルトクロム合金の精密鑄造義歯を作る会社を経営してきたが、その基本技術であるロストワックス鑄造法が、2400年以上も前に中国で確立されていたことを知り、その精巧さに驚かされた。日本では縄文晩期から弥生早期にかけてのことである。見事な透かし彫りが施されている国宝の尊盤(酒器)は精緻を極め、目を見張る美しさだった。参考までに記すと日本で青銅器が作られるようになったのは弥生時代中期になってからである。

国立3大総合大学のひとつである武漢大学で行われた学生200名を交えたシンポジウムは熱気溢れる意義深い集会だった。学長招待の夕食会では大学2年の孫が学長から武漢大学に留学するよう勧められ、力強い握手をしていただいた。「小学校の教師になる」という明確な目標をもって大学に進んだこの孫は、高校2年のとき剣道3段になったほどの努力家だから、必ず私の期待に応えてくれるだろうと今から楽しみにしている。

上海で私は79歳の誕生日を迎えた。夕食会には私のために直径40センチ、高さ15センチほどもある特大の名前入りのバースデーケーキが用意されていた。中西治先生とスタッフの皆さんのお心遣いに感謝の言葉もないほどだった。謝辞のとき涙で声が詰まり、何を言ったのか覚えていない。年を取ると涙脆くなるということを経験した旅でもあった。

訪中最後の夜、南京路の上海書城を訪れた。20階建てビルの7階まで書籍売り場というビッグ書店で、ワンフロアが八重洲ブックセンターの5倍以上もあった。歴史書コーナーの入り口には東条英機、山本五十六、豊臣秀吉、徳川家康、武田信玄などの分厚い本が何10冊も高く積まれていた。

この売り場で、娘が『南京大虐殺史《系列絵画本(1)》東史郎謝罪』という本を見つけてくれた。1912年生まれの東史郎さんが一兵士として日中戦争に狩り出されて体験した「三光作戦」の実態を、多くの写真とリアルな劇画で構成し、謝罪の思いを込めてまとめた衝撃の著書である。この本を訪中団に参加した大学生たちに見せたら、「南京大虐殺事件って本当にあったんですか?」という答えが返ってきた。戦後教育の欠陥をまざまざと見せつけられた思いだった。

帰国した翌日、図書館で検索してみたが日本では出版されていなかった。調べてみたら1957年に、神吉晴男編『三光 日本人の中国における戦争犯罪の告白』(カッパブックス)は右翼の妨害にあって絶版に追い込まれていた。東さんが「平和のための京都戦争

展」で自分の戦争体験を発表してから、「お前はそれでも日本人か、死ね国賊。地獄へ早く行け」など、右翼による執拗な脅迫が続き、自宅も放火されている。そのような右翼の脅迫を恐れた日本の出版社は、東さんの著作をどこも出版してくれなかったのではないだろうか。

靖国神社には近隣諸国に大きな被害を与え、日本を破滅に追い込んだA級戦犯が合祀されている。私は、その靖国神社に参拝を繰り返す歴代の総理大臣と、「揃って靖国神社に参拝する国会議員の会」メンバーの歴史認識の浅薄さが腹立たしく、悲しくてならない。そして大多数の日本人は過去に目を閉ざし、過去から学ぼうとしない者が圧倒的に多い。日本はまた同じ過ちを繰り返す国になるのだろうか。今回の中国訪問は私に余りに多くのことを考えさせる旅であった。

繰り返して言うが、過去に目を閉ざし、過去から学ぼうとしない者に未来を語る資格は無い。日本人が問われているのはそのことである。

訪中特集

パレスチナ問題（その5） 中国とパレスチナ

小林宏紀（こばやし ひろき）

今からここに書きますことは、パレスチナ問題の一局面に過ぎないことかもしれません。しかし私は、パレスチナ問題の解決に向けて、中国の役割に期待したいのです。

2000年4月、中国の江沢民国家主席（当時）は、パレスチナとイスラエルを訪問しています。またこの年の8月、パレスチナ自治政府アラファト議長は、中国を訪問しています。米国クリントン大統領（当時）の仲介によりキャンプ・デービッドで行なわれたイスラエル・バラク首相（当時）とのパレスチナ最終地位交渉がひとたび閉会となった折のことでした。この時、江沢民国家主席はアラファト議長に、パレスチナは独立国家を設立すべきであると提言しています。イスラエルのペレス元首相は、江沢民国家主席の提言の公平性を認め、中東和平協議への政治的な支持を中国に要請しました。

本年3月、パレスチナのイスラム組織ハマースの最高指導者ヤシン師がイスラエル軍によって暗殺された際には、『人民日報』をはじめ中国の主要紙は、いち早くこの事件を分析して記事を組んでいます。それらを概観すると、イスラエル・シャロン首相がパレスチナ・ガザ地区からの撤退を表明する中、これが実行された後、ガザ地区の権力をイスラム組織のハマースが掌握することを阻み、パレスチナ人社会を世俗政権によって存続させることを目的にイスラエル軍はヤシン師を暗殺したのであり、対テロ制裁は口実であるとする分析や、また、暗殺を非難した上で、ハマースの衰退はまさしくパレ

スチナの世俗政権を育てることになり、このことはイスラエルの思惑とは別に、長期的に見ると和平交渉にとっては好都合であるかもしれないとする分析もありました。さらに、イスラエル・シャロン政権はアラファト議長をも暗殺して、パレスチナ自治政府の権力をイスラエルが扱いやすい別の者に移すのではないかという推察もありました。私は、中国メディアの発するこうした分析に触れている中国の人々のパレスチナ観と世論にも期待します。

1980年代後期より、イスラエル占領地のパレスチナ人たちがインティファダ（民衆蜂起）を行い、占領地住民の被抑圧の実態をようやく世界が知った中で、中国は、「パレスチナ問題の解決とはイスラエルが占領地を返還すること」と明解に発言してきました。1988年、インティファダのさなか、PLO（パレスチナ解放機構）がパレスチナ国家の独立を宣言すると、中国は真っ先にこれを承認しました。私は、パレスチナ問題解決の鍵の一つとして、イスラム勢力の代表を和平交渉の席に着かせることをかねてより提案しているのですが、合わせて私は、中国がイスラム勢力にアプローチすることの効果に期待が持てると考えています。経済的大躍進の中、自国が抱える大陸での国境問題の解決に近年努力してきた中国は、イスラエル占領地の住民であるパレスチナ人の医療や学校教育に貢献してきたイスラム勢力に向けて経済的支援を行なうことで、イスラム勢力との信頼関係を築くことが出来ると思うのです。イスラム勢力が和平交渉の意思を持つに至る道程を中国に支えて欲しいのです。日本は米国のイラク攻撃を支持し、自衛隊を派遣して、せっかく築いてきたアラブの人々からの信頼を失いましたが、このことから考えても、パレスチナ問題の解決に向けての中国の役割に期待します。

（2004年9月20日）

訪中特集

地球宇宙平和研究所訪中団学術交流会における論議から 渡辺直毅（わたなべ なおき）

私は2004年8月31日から9月8日まで地球宇宙平和研究所訪中団に参加した。今回の訪中では、8月31日に北京大学日本研究中心と、9月3日に武漢大学と、9月6日に上海社会科学連合会と学術交流会が開催された。ここではその学術交流会での論議・論点を整理すると同時に、私自身がそれを通じて考える見解を述べてみることにしたい。

学術交流会では本研究所の理事長である中西治先生より「日本政治の現状と地球宇宙平和研究所の課題」と題して報告が行われた。報告では日本政治と日本政治をとりまく現状として以下の点が指摘された。地球社会の変化がヤルタ・ポツダム体制から21世紀地球システムへ転換しつつあること。日本社会が科学技術の急速な発展による農業社会 農工業社会 工業社会 知識情報社会へと変遷する

なか、飢えを知らない、戦争を知らない世代が増えてきていること。ヤルタ・ポツダム体制から 21 世紀地球システムへの移行過程が自民党を中心とする政治を侵食してきたとする日本政治の変化、機能不全となった自民党の「救世主」として誕生した小泉政権が、2001 年の参議院選挙において躍進しながらも 2003 年の衆議院選挙以降その人気にかげりが見えつつあること。現状として日本政治は自民党と「民主自由党」の保守同士の戦いであり、護憲勢力の衰退が顕著であること。その延長線上の問題として、日本は戦争をしない国から戦争をする国へ変わりつつあり、憲法第 9 条の改定が具体的な政治課題となっていること。こうした現状に立ち、地球宇宙平和研究所の課題として、日本国憲法第 9 条を支持し、地球全体に広める運動を推進することや地球宇宙平和学を確立し、地球全体に広めること、今回の中国訪問に続き朝鮮・韓半島、ロシア訪問を計画し、近い将来に東アジアの平和を確立するための会議を予定することなどが指摘された。

報告をめぐり学術交流会ではさまざまな論点
が存在した。その論点を整理すると主として5
つの論点が存在したと思われる。日本国憲法
第9条の問題、日中関係について、今後
の中国の課題について、現在の日本と今後に
ついて、東アジアの平和と発展について、で
ある。については、日本国憲法第9条改憲
に賛同する人びとはどれくらい存在し、今後改
憲の可能性はいかなものか、という質問ある
いは見解が顕著であった。憲法第9条の護憲こ

写真

北京大学 学術交流会を終えて

そが現在最も現実的であるとする見解や憲法第 9 条の改憲と他の問題が込みで議論される状況が存在し、個別に分けて考える必要があるとする見解がこうした質問に対して提起された。については、「反日」感情の「反日」とは、小泉首相の靖国参拝に反対することであり、日本国民に反対することではないことや、経済は良好だが政治が冷却化してきている両国の関係を教科書問題や日本を総合的に理解することなどから解決していく必要があること、などが提起された。では、主な民族別に共和国をつくりその先に共和国の連邦制を施行したソ連をモデルとしてきた地域自治のありかたを、さまざまな民族、人種の混在の上に成り立つものへ移行させること、特権階級、官僚主義と腐敗の問題、そして台湾、尖閣諸島などの領土問題などがあげられた。では、日本と米国の関係について、主に日本の政策への米国の影響力がどれくらいのものであるのか、日本は米国よりのグローバル戦略か中国、韓国などと提携する戦略のどちらを今後選択するべきか、という観点からの問題提起があった。は、

から までの論点を包含する総論的なものである。ここでは上記のような論議の上に、今後の東アジアの平和と発展のためには、ASEAN + 3 の形成を急ぐべきこと、CIS のような常設の協議・協力機関を設けること、EU と同等の共同体が築かれること、共同の東アジア現代史の創造などの提言があった。米国が介入しそれに依存する傾向のある東アジアの国際秩序は、近い将来において「～・北京体制」ともいべき中国のイニシアティブが現れる新しい秩序へとシフトするとの見解もみられた。

東アジアでは共同体や地域のアイデンティティを創造することは西欧やその他の地域に比べると非

常に難しい、という見方が従来から支配的であった。その理由は、台湾海峡や朝鮮半島についての冷戦時代の問題が残っていることや、文化、言語、宗教の違いが存在することである。しかし、現在ではむしろ歴史上の変化に着目し、東アジアでの経済的関係が強まり、国境を越えた生産、金融、交通、通信が進み、それがアジアで対立よりも協力を促進する状況を生み出していることに着目する研究が顕著である。東アジアで形成されつつある新たな地域共同体については、EU に比べて「流動的な外との境界」を持ち、政府の制度を重視する「トップダウン」＝「地域主義」と、政府の関与のない、国の主権にも触れない個人、企業、NGO などによる「ボトムアップ」＝「地域化」の共存する統合の形態にその独自性が見られるとの指摘がみられる。日本と中国はこれに競合するのではなく協力するかたちで参入すること、主として経済だけを媒介とする統合をより重層的かつ恒常的なネットワークへと進めていくために非経済分野での「知的共有」を目指すことなどが今後必要であると思われるが、今回の訪中における学術交流会の開催とそこで提起されたさまざまな見解・論議はこうした必要性に十分にこたえうる端緒となるものであったと思われる。今後の本研究所の活動に期待しつつ、私自身も積極的に関わりたい。

訪中特集

中国を訪ねて

近藤 嘉人(こんどう よしと)

私は1歳半から4歳までの2年半の間北京に住んでいたことがあり、またその頃に様々な海外の国に旅行したことがあるが、幼少の故に日本と日本国外の国との区別・比較を特に意識することもなかった。私にとって今回の中国訪問のその中国という言葉の中には「初の日本国外の国」という意味も含まれていた。「初の日本国外の国」中国は、私の目にどのように映ったのだろうか。

北京に到着してすぐさま、まずその空港の建物に驚かされ、そして、続けざまにバスの窓から見える多くの巨大な建築物に私は驚いた。そこには想像していた以上に発展した都市たちが私を歓迎してくれた。しかしその後、北京で過ごしてさらに驚いたことがある。「北京」というと中国の中心都市であり、まさにそこは日本で言うところの「東京」にあたる都市だと思っていたが、そこには東京ではあまり見ない光景があった。北京の中心部というのは、東京の中心部のように全てが全て高層ビルが聳え立っているわけではなく、いまだ昔のままの北京の町並みを残している部分が多く存在していた。また北京周辺地域には世界遺産や古き時代の文化・建築物が多く存在し、自身の歴史を残しながら近代化を進める中国の姿を感じられた。そこには「追いつけ追い越せ」の思想の下、自分たちの文化そっこのけで近代化(西洋化)した日本にはない素晴らしさがあるように思えた。

日本とは違う特長をあげようと思えば、もう一つ大きな驚きを感じたことがある それは天壇公園

の朝の風景である。朝早くから蹴鞠・太極拳・剣術で体を動かす人や、歌を歌い踊りを踊る人、将棋や囲碁を打つ人、そしてそれを楽しそうに見る人たちが天壇公園に溢れかえっていた。日本でも休日に公園へ出かけている人を見ることはあるが、規模も人数も、そして何より他人同士でも和やかに朝を楽しむ雰囲気は明らかに異なるものであると言える。この人たちは退職者だということだし、主観的な見方で実際はどうであるかは知らないが、学校や仕事に追われ忙しく毎日を過ごしている日本人と違い、中国の人たちは自分の人生を自分で充実させ楽しんでいるように私の目には見えた。

ところで日本と中国で似ている部分があるかと聞かれれば、確かにあったが、それは私を悲しめたものであった。武漢・上海で中国の小中学校の参考書でどのように第二次世界大戦などの日中関係の歴史が書いてあるかを見に書店に行った。私は反日的な参考書が並んでいることを期待していたが、そこにあったのはまさに知識偏重と思われる受験用の本であった。さらに歴史の参考書の本が 写真
少なく、英語や理数系の本ばかりが並んでいた。日本・中国共に教育が大きな問題となっている中、歴史 特に戦争と平和の学習が軽視されているように思えた。

将来教師になる身として、まず自分自身が日中関係や戦争と平和について学び深めていこうと思う。

上海 浦東開発地区

韓国を6日間旅して 佐藤智子（さとう ともこ）

9月30日から10月5日まで、アジア太平洋資料センター（PARC）の企画で韓国に行ってきた。ソウルに三泊、光州と順天に一泊。北は非武装地帯から南は麗水まで足を伸ばし、NGOや市民運動と出会う旅だった。

最初に訪問したのは、北朝鮮を支援している最大のNGO「我民族お互い助け合い運動」の本部。1996年から食糧援助を開始、2001年からは開発支援に重点を移し、月に2～3度は北朝鮮を訪問してモニタリングしているという。韓国にも北に拉致された人たちがいるが、支援は人道的に行っている、日本はなぜ拉致にこだわるのかと。若手スタッフの澁刺とした姿が印象的だった。

米軍基地関連ではソウル・龍山（ヨンサン）基地周辺、米空軍の爆撃練習場になってい

る梅里香（メヒャンニ）、龍山基地の移転先に指定されている京畿道・平澤（ピョンテク）を訪ねた。平澤基地はもとは日本軍が使用していたものだ。周囲は稲穂が実る穀倉地帯。米軍基地拡大の影響を受ける村の村長らが10人ほど集まって、私たちの到着を待っててくれた。この日だけ雨で肌寒かったが、オンドル部屋の床はほわっと暖かい。彼らはただ基地に反対しているのではない。農地を、農業を守りたいという強い意志がひしひしと伝わってきた。いったい、軍事基地が人間の幸福にどれほどの寄与をしているのだろうか。

非武装地帯の見学や、元「慰安婦」と呼ばれるハルモニたちが暮らすナムの家訪問も、私には衝撃的だったが、ここでは光州に触れておきたい。1980年5月18日、光州民衆抗争が起きたところだ。この事件の真相はまだすべて解明されてはいないが、韓国の現代史はここから始まるという人もいる。1997年には犠牲者を葬る国立墓地が完成し、その敷地内に5・18写真資料展示館もある。そのほか、5・18記念文化館、5・18自由公園など、光州民主化運動の精神を継承しようとする空間が市内にいくつもある。5・18記念財団で話を聞いた。真相究明、責任者処罰を求めながらも過去にとらわれているわけではない。目は未来を向いていると感じた。多大な犠牲を払って手にしてきた民主化の重みを知っているからだろう。獲得した民主主義を後退させまいという気概が、気負わずさわやかに運動を支えているように思えた。それはたぶん光州に限らず、いま元気なさまざまな市民運動に共通する「元気のもと」なのかもしれない。

今回私が見てきたのは韓国的一面であろうが、いずれも現実であるのはたしか。残念ながら韓国語がわからず消化不良の感は否めないが、気のいい韓国人に何人も出会い、忘れがたい旅になった。さて、この経験を今後はどう生かすか、近く旅の仲間と会って考えようと思う。

タイの平和署名運動：第二次大戦、朝鮮戦争とイラク侵略戦争の今日

高橋勝幸（たかはし かつゆき）

2004年8月15日を境に、タイでも平和行事が様々に組織された。8月16日には自由タイ公園に、自由タイのメンバーや遺族が集った。8月16日は「タイの平和の日」である。戦後しばらく公休日であったが、政治的理由により、公休日ではなくなった。日本軍がタイに侵略したのは1941年12月8日である。日本は武力南進のために、タイを軍事基地として欲した。前年暮れに勃発したタイ仏印紛争で、日本はタイに有利に仲介し、貸しを作っていた。これにより領土を一部回復したため、その後、タイ政府は厳正中立政策に戻った。日本軍の侵略に対して、日本軍の予測に反し、タイ

側は徹底抗戦し、双方に夥しい死傷者が発生した。タイ政府はその日のうちに日本側の圧力に屈し、同月、同盟関係を結んだ。タイは勝ち馬に乗るべく、翌42年1月、英米に対して宣戦布告した。当時、国王（現国王ラーマ9世の兄で、ラーマ8世王。46年死去）は未成年でスイスに留学中であつたために、3人の摂政が置かれた。宣戦布告に、摂政の一人、プリーディー=パノムヨンが署名しなかった。これが後に、タイ側の宣戦布告無効の根拠となった。日本の大勢が不利になると、ピブーン首相は連合側との連絡を試みるが、辞任に追い込まれ、既に抗日地下運動（自由タイ）を始めていたプリーディーらが実際の政権を掌握した。戦中は、プリーディー派、在米タイ人、在英タイ人、タイ共産党、華人が抗日地下運動を展開した。プリーディー摂政は45年8月16日に宣戦布告を無効とする平和宣言を発表した。平和の日の由縁である。その後、プリーディーは47年11月の軍部のクーデタにより亡命生活を余儀なくされ、21年間を中国で暮らし、83年パリで客死した。

戦後、平和運動が世界各地で展開するなか、タイにおいても第二次大戦の経験より発する反戦、厭戦感情が、社会主義思想の影響を受けながら平和運動に結実し、国際平和運動に呼応した。すなわち、1950年10月末、ストックホルム=アッピールに賛同し、朝鮮戦争に反対する署名運動が始まった。同宣言は50年3月に発表され、原子兵器の使用禁止、その厳格な国際管理、最初に使用した国を戦争犯罪人にする事を謳った。その年の6月末に朝鮮戦争が勃発し、タイも派兵したことから、軍事独裁下のタイでも平和署名運動が発展した。51年4月、タイ国平和委員会が発足し、五大国の平和協定締結を求める2回目の署名運動を開始した。延べ約25万人が署名した。タイ国平和委員会が52年10月に北京で開催されたアジア太平洋地域平和会議に代表を送ると、タイ政府も、それを支援するアメリカもいよいよ堪忍袋の緒が切れて、11月10日に一斉検挙に乗り出した。タイの人々はこれを「平和反乱」と呼び、タイの政治史に人権弾圧の日として刻まれている。その3日後に反共法が復活し、2001年6月まで効力を持った。「平和反乱」の被告は54名であり、その大半が仏暦2500年（1957年）の恩赦（当事者は犯罪を認めないので恩赦とは呼ばない）まで4年強、獄中であつた。

筆者は現在、上述の朝鮮戦争期のタイの平和運動について学術論文を作成中であり、当事者やその遺族にインタビュー調査をしている。2004年の8月をタイで過ごし、いくつかの平和行事にも参加した。調査の関係で、平和行事にも顔なじみの人が多かった。そこで知り合いに、日本の憲法第9条を实践し、その精神を広めるための署名をお願いし、38名が署名に賛同してくれた。もちろん、筆者の臆病のためにお願いができなかつたり、断られたりすることもある。日本の軍国主義と戦った人たちは高齢であり、著名な人もおり、筆者はしばしば署名を頼む勇気を持ち合わせなかつた。

断られた理由をいくつかあげておきたい。まず、なぜ日本の憲法なのか説得できなかった。日本の過去のイメージは悪い。その場で読んで署名するには宣言文が長すぎる。日本の内政に干渉したくない。署名を利用されることを恐れた。平和を守るための軍備は必要悪。日本の憲法は古いので、そろそろ変えてもよいのでは、等々。平和の解釈も様々である。鶴見俊輔はその編著『平

和の思想』の中で、平和運動に参加しない沈黙の人々の存在に言及している。彼は「平和運動は運動である限り、それがどのように権力を嫌っても、ある仕方ですらの権力を組織して、より大きな権力にたちむかっていく可能性」を指摘した。その落とし穴にはまらないようにあえて平和運動に一切関わらないが、平和を希求する人々がいることを忘れてはならないと思う。

写真

「タイの平和の日」に集った自由タイのメンバーとその遺族。前列左から2番目がフリーディーの妻ブーンスック=パノムヨン。「明年、60周年を元気に盛大に集おう」と呼びかけた。(自由タイ公園にて、2004年8月16日、筆者撮影)

今回署名してくれた人に、フリーディーの娘3人がいる。3人とも50年以上前に朝鮮戦争に反対する署名をした。妻ブーンスックは署名したために検挙され、幼子2人ドゥサッディーとワーニーを連れ、84日間、拘禁された。署名運動を推進した息子パーン(故人)は当時タマサート大学の学生でもあったが、有罪であった。娘のドゥサッディーは「また逮捕されるんじゃないでしょうね」と冗談を言いながら、署名に応じてくれた。

また、署名人の中にタイ国平和委員会副委員長のクラブ=サイプラディットの息子の名がある。クラブは新聞人であり、作家であり、民主化活動家であった。明2005年、生誕百周年を迎える。クラブは戦前、日本に滞在し、新聞について学んだことがある。日本を舞台にした小説『絵の裏』は、2度も映画化され、日本語にも翻訳されている。クラブはピブーンの独裁を批判し、日本の侵略に反対する論陣を張り、初めて逮捕された。自由タイ運動にも参加した。「平和反乱」事件で有罪判決を受け、釈放された57年に、ソ連の革命40周年記念祝賀会への招待を受け訪ソした。翌58年に訪中したが、サリットのクーデタにより、帰国を断念し、74年中国で客死した。2004年8月14日、生誕100周年を記念する行事がフリーディー研究所で開かれ、クラブもタイ語に翻訳したゴーリキーの『母』のロシアの無声映画が英語の吹き込みで上映された。クラブの息

子スラパンは、この会場で9条を支持する署名をしてくれた。因みに、スラパンはソ連に留学経験をもち、妻はプリーディーの娘ワーニーである。

平和運動を研究していた筆者は、平和署名を収集する側に回った。ミイラ取りがミイラになった。

会員紹介

野津志乃 (のつ しの)

私は創価大学の博士課程に在籍しております野津志乃と申します。現在は博士課程の2年目でアフリカ・ガーナ共和国の女性の政治参加の研究をしています。

2001年5月から2002年3月までガーナに留学しておりました。ちょうど9・11の衝撃が世界を震撼させたとき、ガーナで友人とテレビで見えていました。速報として世界貿易センタービルに飛行機が突っ込んでいく映像はアフリカの地でも驚きの眼差しで注目していました。私は当時、国際学生寮に住んでいましたので、世界中の学生の反応を目にしました。アメリカ人の学生は衝撃で授業どころではなく、「自国が攻撃された」と嘆き、中には知人を亡くした人もいました。落ちつきを取り戻すと誰からともなく「今、何ができるのか」と聖書をもって語り合いをはじめていました。しかし、ガーナ人やほかの国の学生の中には、「アメリカは他の国の搾取の上に自国の繁栄を築いてきた。あれは天罰だ。」という人もいました。そして、ガーナの田舎のテレビのない家庭でもラジオを通し、そのニュースが行き渡っていました。ガーナで9・11を迎えたことにより、搾取されていると感じる人のリアルな感情をその場で聞くことができたと思います。

アフリカまで行き日本や東アジアをみたとき、日本と中国や韓国との共通性を強く感じるということもありました。ガーナから帰国後、地球宇宙平和研究所の設立を知り、宇宙規模で発想し地球の平和を構想する研究所の理念に賛同し会員になりました。今回、地球宇宙平和研究所の訪中団にも参加させていただき、さらにこの研究所の理念と役割を痛感いたしました。今、日中間にも領土や歴史観等さまざまな紛争の種があります。しかし、この研究所のような宇宙というもっと大きな観点に立つことによって、両国の問題に解決の糸口を見出せるのではないのでしょうか。宇宙からみれば現在の国境や領土紛争は小さなことに感じます。尖閣諸島の問題などはどちらにも利益があるよう資源を共同管理する道筋をつけることもできるのではないのでしょうか。また、憲法9条と自衛隊の問題が訪中時に議論されました。北京大学訪問の際、理事長の中西先生が「憲法9条は世界の財産です。これを次の世代に残さなければならない。」とおっしゃられました。私はこの考えに共感しております。アフリカから多くのことを私は学びましたが、私からも憲法9条の精神など日本から発信できることをア

フリカの友人に語り、ともにより良い世界を作りたいと思います。

訪中報告

日程 学術交流会を3都市で開催 (2004年8月31日から9月8日、8泊9日)

8月31日(火)北京(新北緯飯店泊)

北京 (学術交流会)

日時: 8月31日午後4:00~6:00

場所: 北京大学三院215室

中国側出席者: 北京大学日本研究センター常務副センター長彭家声教授ら研究者

内容: 中西理事長講演「日本政治の現状と地球宇宙平和研究所の課題」及び共同討論

9月1日(水)北京

天壇公園、天安門広場、故宮博物院、頤和園、
交流会

9月2日(木)北京

中国人民抗日戦争記念館、盧溝橋、
明の十三陵、万里の長城

9月3日(金)武漢(武漢循礼門飯店泊)

武漢 (学術交流会)

北京 万里の長城

日時: 9月3日午後3:30~5:00

場所: 武漢大学苴芑表廸

中国側出席者: 胡副学長、歴史学院・政治学院の教員・学生

内容: 中西理事長講演「日本政治の現状と地球宇宙平和研究所の課題」および質疑応答
その後、劉経南学長と会見、学長主催の歓迎パーティー

9月4日(土)武漢

湖北省博物館、黄鶴楼

9月5日(日)上海(兆安酒店泊)

浦東開発地区、豫園、東方明珠、外灘地区

9月6日(月)上海

上海博物館

上海 (学術交流会)

日時: 9月6日午後2:00~4:30

学術交流会 武漢大学

場所: 上海社会科学会堂

中国側出席者: 復旦大学、上海師範大学、上海社会科学連合会関係の研究者

内容: 中西理事長講演「日本政治の現状と地球宇宙平和研究所の課題」および共同討論
その後、交流会

9月7日(火)蘇州、上海

拙政園、虎丘斜塔、寒山寺、刺繡研究所

上海南京路

9月8日(水)上海発

参加者 (24名)

蘇州 虎丘斜塔

中西 治	団長、地球宇宙平和研究所理事長、創価大学教授
佐藤智子	副団長、地球宇宙平和研究所副理事長
木村英亮	顧問、地球宇宙平和研究所監事、二松学舎大学教授、横浜国立大学名誉教授
汪 鴻祥	秘書長、地球宇宙平和研究所理事
王 元	副秘書長、地球宇宙平和研究所理事 中国鄭州大学アジア太平洋研究センター専任研究員
川嶋英夫	日本デンタルラボラトリー元会長
川嶋陽子	ボーイスカウト日本連盟逗子支部逗子第一団委員
林 亮	地球宇宙平和研究所理事、創価大学助教授
近藤 泉	「のびゆくこどもプラン小金井」推進市民会議委員
佐藤仁志	毎日新聞社編成総センター副部長
浪木 明	ナミキMIEコンサルティング代表

川崎高志 地球宇宙平和研究所理事、創価大学助教授
 岩木秀樹 地球宇宙平和研究所理事、創価大学講師
 渡辺直毅 創価大学大学院生
 吉野良子 創価大学大学院生
 亀山伸正 創価大学大学院生
 野津志乃 創価大学大学院生
 石川光恵 創価大学生
 飯村金吾 創価大学生
 佐野加奈 創価大学生
 星出康夫 創価大学生
 近藤嘉人 創価大学生
 近藤よし花 小金井市立小金井第二中学校
 近藤慶水 小金井市立南小学校

上海 豫園

収支報告

収入 参加費 3,579,000円
 (内訳) 155,000 × 17 = 2,635,000 (一般)
 184,000 × 2 = 368,000 (一人部屋希望)
 69,500 × 2 = 139,000 (現地合流)
 149,000 × 1 = 149,000 (途中離団)
 144,000 × 2 = 288,000 (小中学生)

支出 旅行会社代金 3,087,000円
 おみやげ代 54,310円
 チップ代 19,170円 (1,420元)
 現地入場料 50,868円 (3,768元)
 懇親会費用 115,385円 (8,547元)
 参加者記念品 21,060円 (1,560元)
 滞在中雑費 1,755円 (130元)
 記録費 18,101円
 合計 3,367,649円

武漢大学学長と

(注：1元 = 13.5円で換算。小数第1位四捨五入)

収支差額 3,579,000 - 3,367,649 = 211,351円

理事会報告

第2期理事会第5回会議

第2期理事会第5回会議が2004年10月11日(月)午後3時から午後5時30分まで、かながわ県民活動サポートセンター701号室で開かれました。

佐藤智子より中華人民共和国への訪問結果について説明があり、収支差額を研究所の会計に充当することなどが満場一致で承認された。

岩木秀樹より名刺代の処理について説明があり、収支差額を研究所の会計に充当することなどが満場一致で承認された。価格や作成者への報酬は今後検討していくことになった。

佐藤智子より2004年度前期の財政状況と後期の見通しおよび対策について説明があり、2004年度上半期の収支報告が承認され、対策については今後もさらに検討していくことになった。

各委員会責任者より活動報告が行われた。企画広報委員会の新たな責任者に岩木秀樹がなった。

中西治より学術研究委員会の設置と研究出版委員会および文化学術交流委員会の新委員会への統合について説明があり、学術研究委員会の設置と、研究出版委員会および文化学術交流委員会の学術研究委員会への統合、同委員会のもとに研究部、出版部、交流部を設置することが承認された。同委員会委員長に中西治が選任され、研究部部長を木村英亮に、出版部部長を王元に、交流部部長を汪鴻祥に委嘱した。同委員会は委員長、研究部、出版部、交流部の各部部长、事務局長および理事会が委嘱した者によって構成され、研究部会の責任者はオブザーバーとして参加できることになった。また研究部内に研究員と客員研究員の制度を設け、研究員は研究所正会員のなかから希望する者に、客員研究員は研究所正会員以外の者に委嘱することになった。

中西治より名誉顧問制度について説明があり、審議の結果、原案の名誉顧問の名称を顧問と修正し、研究所の学術文化交流の発展に著しく貢献した者および研究所へ多額の寄付をした者に、理事会での決定を経て、顧問の称号が贈られることが承認された。顧問は研究所の活動について助言ができることとする。

岩木秀樹より2004年度後半の活動計画について説明があり、満場一致で承認された。なお2005年1月9日の講演会は、事務局と企画広報委員会において今後検討することになった。

中西治と岩木秀樹より2005年度の活動計画について説明があり、2005年8月に朝鮮民

主主義人民共和国への訪問が承認された。所報については今後出版部でさらに検討することになった。

中西治より事務局長の交代について説明があり、佐藤智子事務局長の辞任が承認され、後任の事務局長に岩木秀樹が任命された。

各研究部会責任者より研究部会(「地球社会論」「平和の歴史・思想・現在」「日本社会」「東アジア安全保障」「現代中国」)の活動について報告があった。

中西治より日本国憲法第9条を支持する宣言について報告があった。

岩木秀樹より 2004 年度前半の活動、2004 年度前半の会計報告、会員数について報告があった。

事務局からのお知らせ

学術研究委員会の設置

理事会報告にありますように、新たに学術研究委員会が設置され、同委員会のもとに研究部、出版部、交流部が設けられました。委員長及び部長は以下の通りです。

学術研究委員会委員長	中西 治
研究部部长	木村英亮
出版部部长	王 元
交流部部长	汪 鴻祥

研究員の募集

研究部内に研究員と客員研究員の制度を設け、研究員は研究所正会員のなかから希望する方に、客員研究員は研究所正会員以外の方に委嘱することになりました。研究員になることを希望する方は11月10日までに事務局にご連絡下さい。

顧問の設置

研究所の学術文化交流の発展に著しく貢献された方や研究所へ多額の寄付をされた方に顧問の称号を贈ることになりました。顧問は研究所の活動について助言できます。

事務局長の交代

事務局長が佐藤智子から岩木秀樹に交代になりました。今後の事務局への連絡は岩木までお願いします。

企画広報委員会の拡充

今までメールを通して研究所全般の活動や事業の企画立案をしていましたが、今後はそれとともに、事務局と密接に意見交換をしながら、ホームページやメーリングリストの管理、ニュースレターの編集・発行、メール通信の発行などにも関わるようになりました。

また委員会の責任者が佐藤智子から岩木秀樹に交代になりました。さらに今まで委員だった伊藤和、今井康英、小林宏紀、佐藤智子、相馬大三、高橋勝幸、竹田邦彦、竹本恵美、中西節子、浪木明、長谷川薫、林亮、宮川真一の他に、遠藤美純、渡辺直毅、木我公輔、吉野良子、野津志乃が新たに委員となりました。

今後の予定

・研究会

「地球社会論」研究部会

報告者： 中西 治

日時： 11月28日、12月26日、日曜日の午後2時から4時まで

場所： 研究所事務所 神奈川県横浜市磯子区洋光台 1-9-3

参加費： 無料

「平和の歴史・思想・現在」研究部会 第6回研究会

報告者： 渡辺直毅ほか

テーマ： 「紛争の概念 - 『戦争』をめぐる概念を中心に」

日時： 11月14日(日)午後2時から5時まで

場所： 八王子市市民活動支援センター会議室(0426-46-1577)

JR八王子駅と京王八王子駅の間にある仁和会総合病院と八王子保健所の向かいのビル「ファルマ802」の5階(古本屋ブックOFFの隣のビルです。)

参加費：500円

「日本社会」研究部会

日時： 11月12日(金) 午後7時から9時

場所： 東京ボランティア・市民活動センター会議室C

(JR飯田橋、セントラルプラザ10階 Tel:03-3235-1171)

・講演会

講師：梅林宏道(NPO法人ピースデポ代表)

日時：11月21日(日)午後2時半から4時半まで

場所：かながわ県民活動サポートセンター711号室

テーマ：「アジアの平和と脱軍備」

*最近注目されている米軍再編や沖縄問題と関連づけながら、アジアにおける協調的安全保障や非核地帯についてお話しいただけます。

・新春講演会

日時：2005年1月9日(日)午後3時半から5時半まで

場所：かながわ県民活動サポートセンター711号室

講師・テーマ：未定

・研究合宿

テーマ：「いかなる地球宇宙平和学を創るのか」

日時：2005年2月26日(土) - 27日(日)

場所：東京近郊

詳しくは追ってお知らせします

・ 国際的文化学术交流

2005年8月に、朝鮮民主主義人民共和国を訪問します。詳しくは追ってお知らせします。

名刺と年賀状の作成

研究所でロゴ(カラー)入りの名刺と年賀状を作ります。以下の料金は送料込みで、発送は申し込みの10日程度あとなります。(なお年賀状の申込期限は11月いっぱいとなります。)希望者は事務局まで連絡下さい。

・ 名刺

事務局のプリンターでの印刷です。

日本語と英語表記で印刷してほしい項目をお知らせ下さい。

料金は両面印刷50枚で1,500円、100枚で2,000円、片面印刷50枚で1,000円、100枚で1,500円です。

・ 年賀状

事務局のプリンターでの印刷です。

ロゴマークをカラーで印刷し、その他の内容もメール等で送っていただき、ある程度のレイアウトの希望もお受けします。

お年玉付き年賀葉書で印刷します。持ち込まれた方には葉書代分が安くなります。

料金は年賀葉書代分を含んで、100枚7,000円、200枚13,000円、300枚19,000円です。

地球宇宙平和研究所入会の案内

研究所の趣旨に賛同し、入会される方を広く募集いたしております。会員の方もご友人、ご家族等に紹介していただければ幸いです。入会希望の方は事務局まで連絡下さい。

・ 正会員(総会での議決権あり)	入会金	5,000円	年会費	5,000円
・ 賛助会員	入会金	2,000円	年会費	3,000円

* 振り込み先

- ・ 銀行振り込み 三井住友銀行三鷹支店
(普) 1700950
名義人：特定非営利活動法人地球宇宙平和研究所

- ・ 郵便振り込み 郵便振替口座番号 00120-7-16913
口座名称：特定非営利活動法人地球宇宙平和研究所

事務局

事務局への連絡は以下へお願いします。

岩木秀樹 メール：hiiwaki@f4.dion.ne.jp
電話・ファックス：0426-54-8505
住所：193-0801 八王子市川口町1607-1 サウスポート203号

特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所
ニュースレター 第6号

発行人 中西 治

発行所 特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所

〒235-0045

神奈川県横浜市磯子区洋光台 1-9-3

<http://www.igcpeace.org/>

発行日 2004年10月25日

編集人 岩木秀樹